

第3学年 国語科学習指導案

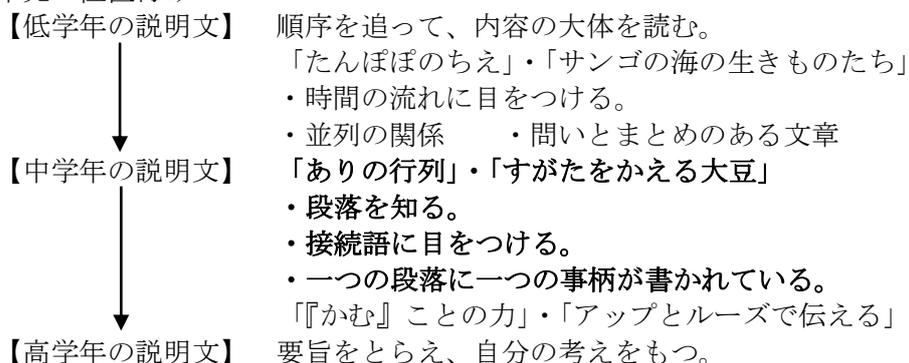
日 時 平成21年6月25日(木) 5校時
児 童 第3学年 男10名 女20名 計30名
授業者 T1 朝日田 浩子 T2 下田隆衛

付けたい読解力	A 段落の中心になる文や事柄を見つけながら読む力<理解・確認> B 段落相互の関係を接続に注意しながら読む力<解釈> C 段落ごとの内容を比較検討しながら読む力<解釈>
---------	--

1 単元名 まとまりに気をつけて読もう (光村3年上)
教材名 「ありの行列」

2 単元について

(1) 単元の位置付け



(2) 教材について

第3学年及び第4学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を正しく読むこと」である。具体的には、段落を意識し、まとまりに注意しながら読むことができるようにすることである。そのために、接続語、文末表現、繰り返し語句などの言葉を押さえながら、段落に書かれている内容を丁寧に整理していくことが大切である。その際、児童が目的意識や必要感をもち、主体的に文章の「中心」をとらえることができるような学習展開を工夫することが求められている。

本教材は、実験—観察—考察—研究—結論という過程を通して、筆者の疑問に答えていくという内容である。これまでと違い、論説的要素を含んだ説明文は、児童の論理的思考力を高めるのに適した教材である。また、中心文を見つけやすいこと、指示語や接続語、文末表現に着目させやすいことなど、文章の要点を理解させやすい構成になっている。

「あり」は、児童にとって身近で親しみのもてる生き物である。普段当たり前のように見ている生き物に隠された事実があるという驚きは、児童の知的好奇心を刺激し、興味深く学習を進めることができると思う。

(3) 児童について

児童は、2年生の説明文「たんぼぼのちえ」「サンゴの海の生きものたち」を通して、「時間の流れにそって読む」「並列の段落構成」「問いとまとめがある文章構成」を学習してきた。

NR Tの結果を見ると、全体的に国語の力が低い。「正しく聞き取ること」が不十分、且つ、設問自体の意味を理解していない児童が多い。

児童は、物語文「きつつきの商売」において、「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む」学習を行い、サイドラインを引いたり心情を会話化したりするなどの書く活動や音読発表会に意欲的に取り組んだ。しかし、独りよがりな読みになることが多く、叙述に即して読み深めることや目的に合った文章を書くことが十分に身に付いていない。個人差が大きく支援を必要とする児童が複数いるため、TT体制を組むことによってきめ細かな指導に努めたい。

(4) 指導観

本教材文を学習することで、指示語・接続語・文末表現などを手がかりに中心文を見つけるという、説明文の基本的な読みの方法を身に付けさせたい。そのために、まず、文章全体の「問い」と「答え」をつかませ文章の大枠を把握させておく。その上で、「問い」から「答え」に至る過程を叙述に即して読み取っていく。模型を操作しながらありの動きや行列のでき方を説明させることで、視覚的にも確認させていきたい。また、単元の終わりに「昆虫クイズ」を作るという目的をもたせることで意欲の継続を図り、活用する力をつけさせたい。

本単元は、児童の実態からTT体制で指導に当たる。支援を必要とする児童のサポートや模型操作の補助等で、T2の活用を図りたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身に付けたい力を明らかにしながら、授業を展開していく。また、初発の感想や教科書へのサイドライン、ワークシートへの書き込み、クイズ作り等の書く活動を通して、確かに読み取る力を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) ありの生態に興味・関心をもち、また、「段落」「接続語」「文末」などに着目して文章を分析的に読むことを楽しむ。(関心・意欲・態度)
- (2) 「問い」と「答え」、段落ごとの要点を正しくつかみ、叙述に即して書かれている内容を理解することができる。(読むこと イオ)
- (3) 課題解決までに至る内容を理解し、文章で表したり感想を書いたりしている。(書 アイ)
- (4) 指示語や接続語、文末表現を手がかりに、文章全体における段落の役割を知る。(言 オ(イ))

4 学習指導計画(9時間)

- | | | |
|-----------|---|---|
| 〈一次 つかむ〉 | 1 | ・ありについて知っていることを話し合う。教材文を読み、感想を話し合う。
・新出漢字や読み替え漢字を確認する。 |
| 〈二次 見通す〉 | 2 | ・「段落」について知らせ、形式段落を確認する。
・「問い」と「答え」の文を確認し、学習計画を立てる。 |
| 〈三次 深める〉 | 3 | ・第2・3段落から1つ目の実験・観察を読み取る。 |
| | 4 | ・第4・5段落から2つ目の実験・観察と考察を読み取る。(本時) |
| | 5 | ・第6・7・8段落から研究の成果を読み取る。 |
| | 6 | ・第9・10段落からありの行列ができるわけを読み取る。 |
| 〈四次 まとめる〉 | 7 | ・段落ごとの要点を短くまとめ、文章構成を把握する。 |
| | 8 | ・文末表現や接続語の働きについて整理する。 |
| 〈五次 広げる〉 | 9 | ・昆虫クイズを作る。 |

5 本時の指導

- (1) 目標 2回目の実験・観察から分かったことを読み取ることができる。

本時で付けたい読解力

- | |
|---------------------------|
| A 中心文(分かったこと)をとらえる力 |
| B 読みの手がかりをもとに、叙述に即して読み取る力 |

(2) 展開

	学習活動(○主発問・学習内容)	指導上の留意点・(評価方法)	
つかむ 5分	1 学習課題を確認し、見通しをもつ。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>ウイルソンの2回目の実験・かんさつを読み取ろう。</td> </tr> </table>	ウイルソンの2回目の実験・かんさつを読み取ろう。	・前時までの学習を想起させながら課題を提示する。 (観察)
ウイルソンの2回目の実験・かんさつを読み取ろう。			
見通す 5分	2 学習場面を音読する。(形式段落④⑤) 3 問題解決の見通しをもつ。 ○③段落に書いてあった3つのことは何ですか。手がかりになる言葉は何ですか。	・「はじめに」「次に」に着目し、実験2に入っていく展開を押さえる。 ○③段落の学習の進め方を確かめながら、④段落を読み取る3つの視点と手がかりを押さえる。 ・「したこと」「ありの様子」「分かったこと」	

		<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉、主語と文末、題や問いに入っている言葉・何度も出てくる言葉
ふかめる 25分	<p>4各自、視点に沿って読み取る。 (一人学び)</p> <p>○「ありの様子」が書いてある所を線で囲みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容(したこと)は全体で確認する。 ○前時のやり方に習い、「ありの様子」が書いてある文全体を線で囲ませる。 ・つまずいている児童には、主語と時間の流れを示す接続語に着目させる。 ・支援が必要な児童には1文ずつ書かれたテキストを配布する。(T2が支援) <p>(教科書・観察)</p>
	<p>5読み取ったことを交流し合う。 (学び合い)</p> <p>○「ありの様子」が書いてある所を確かめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交流する。 ・全体で話し合いまとめる。 	<p>○選んだ文について、理由も付けながら説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句型「～から、～までを囲みました。わけは～です。」を示し、聞き手を意識して説明させる。 ・迷ったペアの考えを抽出し、全体の話し合いの柱とする。 ・ペープサートを操作することで視覚的にもありの動きがとらえられるようにする。(T2) ・「ありの様子」を説明している文を正しくとらえることで、中心文(分かったこと)に気づかせたい。 <p>(観察・発言)</p>
	<p>6⑤段落を読み取る。</p>	<p>○⑤段落が2つの実験・観察の結果であることをおさえる。</p>
まとめる 10分	<p>7つかんだことをまとめる。</p> <p>8感想を交流する。</p> <p>9次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○板書をもとに、読み取ったことをワークシートに整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察文の書き方、②～⑤段落がまとまりになっていることに気づかせる。 <p>(ワークシート・発言)</p>

(3) 具体の評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
「ありの様子」を理解し、内容と文末表現の違いから中心文をとらえている。	接続語をもとに「ありの様子」が書かれている文を見つけ、内容の大体を理解している。	段落内の9つの文が3つの視点のどれに当てはまるか、主語を確認しながら気づかせる。

(4) 板書

ありの行列

ワイルソンの二つ目の実験を読み取るう

したこと、ありの様子、分かったこと

手がかり

四段落

次にこの道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみました。

すると ありの行列は

ようやく

そして

そのうちに

また ありの行列が

帰るときも 道すじは かわりません。

五段落

これらのかんさつから

ワイルソンは、考えました。

はたらきがありが、地面に道しるべになるものをつけておいたのではないか、

ペープサート